

『武漢コロナ』があぶり出したもの

米国における武漢コロナによる死者数は50万人を超え、第一次、第二次世界大戦とベトナム戦争を合わせた死者数よりも多い。自然現象ではない武漢コロナが、独裁国家中共の「新型兵器」ならば、米国はどう対処すべきでしょうか。自由と民主主義と法治による自由主義国家の代表米国が、独裁国家中共に毅然たる態度を取れる大統領を選んだのでしょうか。非常に脇が甘いと言わざるを得ません。

日本は戦後76年間、日米安保条約でアメリカの軍事力に頼り、日本人の血を流すことをしないまま「平和ボケ」の中を、片目を瞑り経済一辺倒で走って来ました。

政治は独裁国家中共に媚びを売る人間が牛耳っています。民主党時代に、小沢一郎は、140名の国会議員を引き連れ、胡錦濤に「宗主国への朝貢」という日本人として屈辱的なことをしています。現在の自民党にも、二階や茂木の対応のように、日本人としての矜持は無いのか!と云いたいレベルです。経済人に於いては、伊藤忠の丹羽という、どちらの国の人間か分からぬ人間が大使という体たらくです。後は推して知るべし、目先の儲け一辺倒で、日本の将来や子供たちのこと、あるいは日本人としての誇り・信念・哲学・国家観というものが全くありません。

習近平は、自分の能力不足を自認してか、毛沢東に並ぶ実績が欲しく、香港を手中に収め、次は、台湾か、尖閣を実力で奪い取ると予想する評論家もいます。

国防という喫緊の事態に、我々日本人は、どう対処すればいいのでしょうか？

国際的に認められた基準に則り、法的にも制度的にも国家として“自立(自律)”することです。軍事的に威圧してくる独裁国家中共に対して、「一步でも我国の領土に侵入すれば、容赦なく即時、反撃するぞ!」という、毅然とした態度をとることです。武器を持ち引き金に指を置く相手に、話し合いで解決するという根性も骨も無い日本の政治家でいいのでしょうか。

我々、日本国民も、国内にいる売国的なマスコミ朝日新聞や、軟弱なインテリ、日教組、左派弁護士を本当に日本人として、誇り有る考え方と行動を取っているのか厳しく問いかけ、国益とは何か、日本を守るとは何かを共有する必要があります。

中小企業を営む我々社長も、今こそ、国土を守り国民を愛し、日本の歴史・伝統・文化・精神を学び直し、郷土愛を育み、日本を愛する真のリーダーとして活躍して参りましょう。マネーゲームで日本は良くなること。逆に人間が墮落することを強く戒めましょう。汗を流し、涙を流し、時に血を流すことも厭わないという、元来日本人が当たり前にしてきたことを再発見することです。古くは、楠正成・正行親子の忠義、西郷隆盛の至誠、武士道・大和魂・日本の心を取り戻すことです。

敵を殲滅すること、侵略することが目的ではありません。我々日本人が戦後、無くしたものを、今こそ取り戻し、誇り有る日本人として正々堂々と生きる姿を、子供たちに見せて参りましょう。日本が「東洋の時代」の先駆けとなるのです。



今月のポイント

日本、自立の時来る!!